

三原徳満 学位論文審査要旨

主 査 清 水 英 治
副主査 永 島 英 樹
同 萩 野 浩

主論文

Histological evaluation of lumbar spine changes in rats with collagen-induced arthritis

(コラーゲン誘発関節炎ラットにおける腰椎変化の組織学的評価)

(著者：三原徳満、谷島伸二、谷田敦、豊島良太、永島英樹)

平成30年 Yonago Acta Medica 掲載予定

参考論文

1. 大腿骨近位部に発生した線維性骨異形成による病的骨折の治療
(著者：三原徳満、遠藤宏治、岡野徹、山下英樹、豊島良太)
平成24年 中国・四国整形外科学会雑誌 24巻 247頁～250頁
2. Influence of spinous process spacers on surgical outcome of laminoplasty for OPLL
(頰椎後縦靱帯骨化症に対する椎弓形成術の手術成績に棘突起スペーサーが与える影響)
(著者：永島英樹、楠城誉朗、谷田敦、三原徳満、武田知加子、豊島良太)
平成25年 Orthopedics DOI:10.3928/01477447-20130327-29
3. Selective spinal fusion for neuromuscular scoliosis in a patient with Pompe disease: A case report and review of the literature
(ポンペ病患者における神経筋性脊柱側弯症に対する選択的脊椎固定術:症例報告と文献レビュー)
(著者：谷田敦、谷島伸二、三原徳満、成田綾、前垣義弘、永島英樹)
平成29年 The Journal of Bone and Joint Surgery Case Connector
DOI:10.2106/JBJS.CC.16.00137

審 査 結 果 の 要 旨

本研究はRAによる腰椎病変の機序を解明するために、ラットRAモデルを用いて組織学的に検討したものである。その結果、椎間板周囲のみにリンパ球浸潤を認めたもの、椎間関節のみにパンヌス浸潤を認めたもの、その両方を認めたものと多種にわたっていた。滑膜を有さない椎間板周囲のみに病変を有するラットが複数いたことから、滑膜関節である椎間関節とは関係なく椎間板周囲の付着部炎も腰椎病変に関与していることが明らかとなった。本論文は、椎間関節にRAの病変が生じることでその機能が破綻してから椎間板周囲が障害されるという学説とは異なる機序を示唆しており、明らかに学術水準を高めたものと認める。